

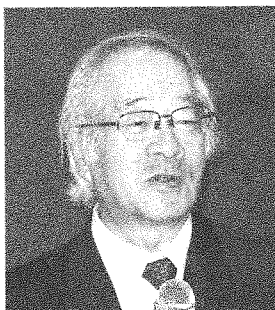
過労死対策セミナー 健康起因事故を防ごう

NPO法人ヘルスケアネットワーク(OCHIS、武田裕理事長)は18日、大阪市で健康起因事故と過労死への対策をテーマにセミナーを開催し、睡眠時無呼吸症候群(SAS)や過労による事故の防止、ドライバーの健康増進について理

OCHIS

解を深めた。

武田理事長は「安全に対する社会の関心は非常に高い。我々の努力と工夫で防ぐことのできる事故がほとんど。今日の内容を、交通事故防止と安全な職場づくりに役立ててもらいたい」と呼び掛けた。



続いて、平田範江氏が2017年度のSAS検査の分析結果を報告。検査を行った1万1969人のうち、トラックドライバーは9637人で、精密検査が必要と判定(D判定)されたのは31・6%だった。

平田氏は「高齢になるほどD判定は多くなる傾向にあり、このうち半数が肥満」と述べ、スクリーニング検査の積極的活用を呼び掛けるとともに、健康管理への

注意を促した。

昨年に続き、管理栄養士の田村みづえ氏が監修した「ドライバーのための意識改革弁当」を食べながら、ランチョンセミナーを実施。武田氏が「良質睡眠の重要性」脳・心臓疾患と睡眠の関連性を中心に」と題し、睡眠の重要性、SASのメカニズムや合併症の恐ろしさについて解説した。

また、国土交通省自動車局の山腰俊博安全政策課長が「睡眠不足に起因する事故の防止と健康起因事故の防止」、全日本トラック協

会の大西政弘交通・環境部付部長は「過労死防止対策とドライバーの健康管理」、大原記念労働科学研究所の酒井一博所長は「運輸業における過重労働と健康管理の在り方」をテーマに、それぞれ講演を行った。

作本貞子副理事長は、OCHISがサービスを提供している、運輸ヘルスケアナビシステムを活用した情報の集約化とその効果について説明した。更に、武田

氏をコーディネーターに、出席者がパネル討論。健康起因事故と過労死の防止、従業員の健康増進などについて意見を交わした。

(小栗史和)